

## 第46回 黒潮町 泊まり合い人権教育研修会が開催されました

7月28日(土)・29日(日)、愛媛県西条市において、泊まり合い人権教育研修会が開催され、41名が参加しました。

今年で46回目となる研修会は、泊まり合いを通じて人権について学び、差別の無いまちづくりを目指して、町が毎年開催しています。今回は台風12号の影響で、2日目の班別協議は実施できませんでしたが、講演会・フィールドワークを行い学習を深めました。

今回訪れた西条市は、県下でも特に「市人権教育協議会や関係団体との連携を図り地域一体となった人権同和教育の推進に向けた取組」がされています。講演会では愛媛県人権対策協議会の西条支部長である原田安一さんから、『部落問題とどう向きあってきたか～行政・教育・運動をとおして～』と題して講話をいただきました。また、同和対策事業により建設された伊曾乃橋を見学し、建設にいたるまでの経緯や込められた地域の先人たちの想いを語っていただきました。

### 参加された皆さんから多くのご意見やご感想をいただきましたので紹介させていただきます。

- ◆今回3回目の参加でしたが新たな出会いがあり有意義な研修でした。高校生をはじめ、学生や住民の参加が必要であると思います。
- ◆初めての人と話し、いろいろな人の考え方や感じ方を知ることができてよかったです。また、講師の実体験を聞くことでとても分かりやすかったです。
- ◆部落問題を住民の総合力で解決するには、一人ひとりの認識が必要だと思いました。
- ◆黒潮町の子どもたちは「人権学習」のチャンスがたくさんあり、すごく大切な部分を感じながら成長していると思うけど、大人もこのような学習で「正しいことを正しく知る」チャンスがあるので、ぜひこの会へ参加していただきたいと思います。
- ◆部落問題はそこで生まれ育っただけでいわれのない差別だと思います。講師が言われた「自分の中にも差別意識がある。自分の中にある差別心を取り除いていく…」、このことを自分自身にも当てはめて日常生活を過ごしていきたいと感じました。
- ◆人権問題を学ぶということは、自分自身がどう生きたいのか、自分らしく生きるためのものであると強く感じました。また、「部落差別解消推進法」が施行されたということは今も厳しい差別の現実があるということであり、「今までの取組をしていただだけでは、差別はなくなる」と強く講師の言われた言葉が心に刺さりました。
- ◆「差別は、行政・教育・運動・住民の総合力で解決できる」という講師のお話が強く心に残りました。
- ◆講師が「今も部落差別が存在し、差別されている人がいることをわかってほしい」と強く訴えていました。自分の子どもが被差別部落出身の人と結婚したいと言った時、反対することで自分の子どもを不幸にすると思います。被差別部落の人は、生まれた場所がたまたま被差別部落であって、何の責任もないし、過去に幕府によって意図的に作られたものなのです。部落差別について、これからも学習し、日常の生活のなかで「おかしい」と思うことを「おかしい」と言える人間になりたいと思いました。

